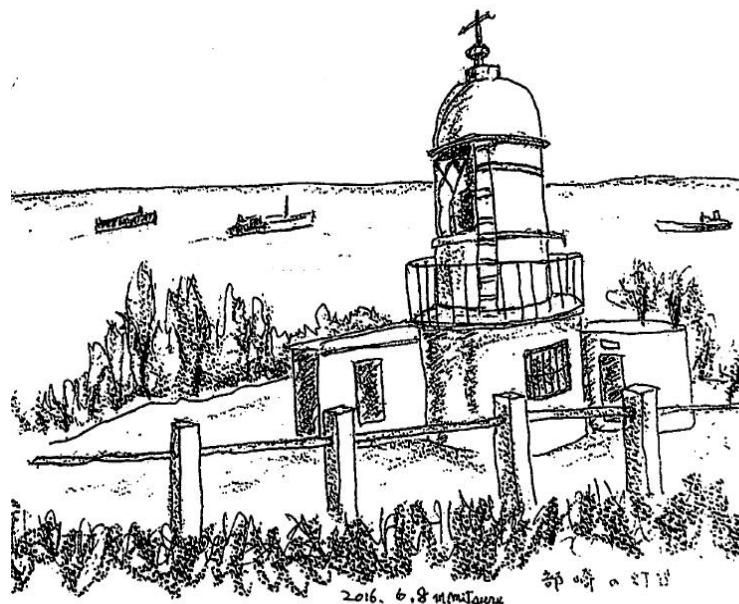


週報2021年8月29日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書4章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年8月29日

司会・奏楽・メッセージ 山崎銀次郎 牧師
(オンライン礼拝) HP アドレス：<http://jesus.holy.jp/>

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	コーラス4「主イエスの十字架の血で」
祈祷	*今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*
聖書朗読	ルカによる福音書 15章 20～28節
説教題	「神の子と呼ばれるために」
祈祷	御言葉の応答の祈り
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあってますか

説教要約

ルカによる福音書 15:20～28 節
「神の子と呼ばれるために」

①平等という言葉の裏側

平等と言う言葉ほど、難しい言葉はありません。辞書で調べると、「偏りや差別がなく、みな等しいこと」とあります。みな、平等な社会を望み、建て上げようとしています。しかし実際はかけ離れた現実に葛藤しながら過ごしています。

今日の話は放蕩息子の例です。イエス様は一体この例え話を誰にしているのでしょうか？ここが大切なポイントです。まずは、罪人や取税人に対してでしょう。全ての人は失われた一匹の羊で“イエス様はその羊を見つけるまで探している”というメッセージを取税人や罪人達に語っています。そしてそれと同時に、パリサイ人に向けて同じ事を語っています。つまり、「あなたも同じ一匹の羊です」そして「一緒にその事を喜び祝いませんか」と伝えたかったのです。このメッセージを通じて大切な事は、聖書の示す平等とは皆神の元に同じ愛と赦しを受けていると言う事です

私達が実際の生活の中で苦しむのは、平等と言う言葉の真実性です。つまりこの言葉を質問形式で投げかけるなら、「あなたは今、社会やそのコミュニティ(グループで)平等を感じていますか？」です。言い換えると、「待遇の違いに悩んでいませんか？」、「相手と自分の違いを受け入れる事が出来ていますか？」、「自分の事が好きですか？」です。放蕩息子の例えはその質問に光を当てています。神に愛されていない人間なんて一人もいません。

②父なる神の愛

弟息子は父にこれ以上ない不義理を果しました。それは生きている内から父の財産をもらい、私欲の為に使い果たした事です。自分のした事の大きさに気付いた息子は、「雇人の一人でもいいから家にいれてもらいたい」と考えました。しかし、父は最初からこの話の終わりに至るまで、一貫して変わらず“私の息子”として取り扱っています。弟は、父の「息子よ」という呼び声に応答しました。

一方、兄は正反対の行動を取ります。帰ってきた弟を身内(家族)として取り

扱っていません。その理由が上記に記した“父の財産を食いつぶしたから”です。つまり兄が言いたいことは、「あなたの過ちを私は赦さない、あなたと私は一緒に食事をするに値しない」と言う事です。結果として兄は家の中に入りませんでした。※15章1節も参照ください。しかしこの例え話の最も大切なポイントは、父は弟にも兄にも「息子」と呼んでいる事です。聖書が示す父の愛は無条件の愛と赦しです。そして放蕩息子の例えが投げかける最終的な質問は「神の子と呼ばれるために必要な条件は何か？」です。

今日、最も大切なポイントはこの質問の答えです。この質問は言い換えると「何故、放蕩息子は父の家に帰ることが出来たのか？」です。聖書の答えはいつもシンプルです。それは父がいつまでも「わが子よ」と呼び、愛しているからです。この言葉を頭ではなく、心で理解する時、人は我に返る事が出来ます。(※ルカ 15:17)つまり、悔い改めとは無条件の愛に立ち返る事です。神はご自分のひとり子、御子イエスを遣わすほどにこの世を愛されました。ここに愛があります。(ヨハネ 4:9～10)

③隔たりの無い人生を歩む

聖書が示す平等とは、“皆神の元に同じ愛と赦しを受けている事”だと学びました。この御言葉の理解が深まるにつれ、真の平等に近づいて行きます。今日の放蕩息子が教える事は「あなたは見つけ出された一匹の羊」「探し出された事を一緒に喜ぼう」です。つまり私達人間が存在するのは、一緒にこの喜びを分かち合う為です。

結論的に聖書の愛を知ることが、本当の平等を知ることです。言い換えると、条件で決まる格差と言う武装を解除し、不遇という重い荷物を降ろし、敵意という鎖を断ち切る事が出来ます。まとめると、人の優劣は能力で決まりません。そして個性の違いは差別する為ではなく、互いに認め、愛し合うために在ると言う事です。その実現を支えるのはお互いに賜った神の愛です。

人間関係の隔たりと(聖書が語る)平等との分かれ道はそこに愛があるかどうかです。愛は全てを結ぶ帶です。(コロサイ 3:14)ということは愛が無いと完全な関係性は結べないとと言う事です。最後の結びとして、隔たりの無い人生とはお互い神の子供として愛し合う人生の事です。その決め手は始めからある神の愛に立ち返る事です。